

令和5年度活動報告

江角学びの交流センター

はじめに：江角学びの交流センターとは

当センターは本学の附属機関として、地域社会に開かれた窓口としての機能を担い、各学科・専攻の学生・教職員による主体的かつ組織的な地域貢献活動を推進することを目的としている。その事業内容は、自治体・公共団体・各種産業界との連携事業、市民講座の開講、学生ボランティア活動の支援、社会人のためのリカレント教育の実施、地域志向型教育課程の編成等々多岐にわたっている。

個々の活動内容の詳細については、主に本学公式サイトで随時情報発信している。また、毎年度末の「評議員会」〔当センター規約第7条〕では、自治体および産業界からの学外評議員を委嘱し、本学の地域貢献活動およびそれと連動した教育課程について、外部から客観的に評価していただき意見聴取をしている。その資料集を「江角学びの交流センター事業概要」として下記 URL にて毎年公開しているので、ご高覧いただければ幸いである。

<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/support/ezumi-center/>

令和5年度の評議員会は、令和6年3月15日、本学において外部評議員をお迎えし、対面で実施した。外部評議員は以下のとおりである（敬称略・順不同）。

下屋敷由貴子（鹿児島県教育庁かごしま県民大学中央センター所長（兼）生涯学習課長）

櫻井正実（鹿児島市市民局市民文化部市民協働課課長）

木下勝幸（鹿児島県錦江町役場観光交流課課長）〔代理出席：宿利原伸二〕

小笹康浩（株式会社鹿児島銀行地域支援部部長）

1 地域人間科学研究所

新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、本研究所の活動は徐々に復活する兆しが見えてきたが、令和5年度も一般を対象にした大規模な公開講義や文化講演会は実施できなかった。コロナ禍後を見据えた企画の検討を続けている。

研究紀要『想林』第15号は例年どおりここに刊行されたが、文化講演会中止等による誌面への影響は避けられなかった。執筆者の皆さまにはこの場を借りて厚く感謝申し上げるとともに、引き続き広く一般の方々の投稿を切にお待ちしているので、皆さまのご協力を仰ぎたい。

本学正規授業「かごしま学Ⅰ・Ⅱ」をはじめ、本学の教育課程の中に編成されている地域志向型科目——地方創生を担う人材育成——のあり方を追及することも本研究所の務めである。学生はもとより広く一般市民の郷土教育の一翼を担えるよう、今後も精進していく所存である。

2 生涯学習支援室

(1)「純心市民講座」

令和5年度「純心市民講座」の各講座の実施状況は表1のとおりである。純心市民講座について言えば、計画どおりすべての講座を実施することができた。受講生の数も前年度に比べ増加傾向にあることは喜ばしい。

表1 令和5年度「純心市民講座」実施状況

講座名	講師	定員	受講者数	会場
シルバー世代のための健康・教養講座 7/15 7/22 7/29 8/19 8/26 (土) 13時30分～15時30分 (全5回)	河野 一典 榑 順子 高岡 綾子 大迫 貴 西田 一豊	各回 30名 (全5回)	延べ 128名	かごしま県民 交流センター
親子でクッキング 8/10 (木) 10時～13時	進藤 智子	20組	12組 (26名)	本学 調理実習室
親子で楽しく実験！ 8/18 (金) 13時～16時	新里 葉子	10組	15組 (31名)	本学 実験室
冬のおもてなし料理 11/25 (土) 10時～13時	大山 典子	20名	20名	本学 調理実習室

想林第15号

講座名	講師	定員	受講者数	会場
お洒落なペットボトルカバーを作ろう 7/15 (土) 13時～16時	宮地真奈美	12名	8名	本学 被服実習室
パッチワークで手提げを作ろう 8/23 (水) 13時～16時	濱崎 千鶴	15名	8組 (11名)	本学 被服実習室
はじめての英会話 幼児コース (春季) 6/24 7/1 7/15 7/22 7/29 (土) (全5回) ①4・5歳児コース 9時～9時50分 ②5・6歳児コース 10時～10時50分 6/25 7/16 7/23 7/30 8/6	John Tremarco	①10名 ②12名	①06名 ②07名	本学 プレイルーム
はじめての英会話 幼児コース (秋季) 10/7 10/21 10/28 11/11 11/25 (土) (全5回) ①4・5歳児コース 9時～9時50分 ②5・6歳児コース 10時～10時50分 6/25 7/16 7/23 7/30 8/6		①10名 ②12名	①06名 ②07名	
はじめての英会話 小学生コース (春季) 6/24 7/1 7/15 7/22 7/29 (土) (全5回) ①低学年コース 9時～9時50分 ②高学年コース 10時～10時50分 6/25 7/16 7/23 7/30 8/6	HILL STEPHEN PATRICK JOHNSTONE PAUL DUFFY	①15名 ②15名	①12名 ②06名	本学 講義室 (2-206)
はじめての英会話 小学生コース (秋季) 10/7 10/21 10/28 11/25 (土) (全4回) ①低学年コース 9時～9時50分 ②高学年コース 10時～10時50分 6/25 7/16 7/23 7/30 8/6	Paul Johnstone Stephen Hill David O'Connor	①15名 ②15名	①12名 ②03名	



シルバー世代の健康・教養講座



親子でクッキング

(2) 社会人の学び直し講座（リカレント教育）

社会人の学び直しの講座（正規の授業を含む）の充実に引き続き努めている。

「科目等履修生」：いくつかの条件を満たし選考を経たうえで、本学の正規授業を受講することができる。

「履修証明プログラム」：令和5年度は5つのプログラムを公開した。本プログラムは1年間で本学の正規授業数科目を組み合わせ受講し、修了者には一定の職業的知識・技能を習得したことが認められ、学校教育法105条の規定に基づく履修証明書が交付される。

社会人の方々のニーズに応えられる開講科目を常に検討し、多くの方々の履修に結びつくよう努める所存である。令和5年度のプログラムは以下のとおりであった。

- 1 「簿記会計・経営学プログラム」
- 2 「大島紬洋装製作プログラム」
- 3 「包括的子育て支援プログラム」
- 4 「栄養士のための学び直し講座」
- 5 「外国人のための日本語・日本文化プログラム」

科目名等の詳細については、下記 URL にて毎年更新しているので、ご高覧いただければ幸いである。

<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/region/extensho-in-course/>

生涯学習事業は県民の皆さまに広く、教養科目や地域社会の学びから専門的スキルを習得するいわゆるリスクリングの場まで提供するものである。本学の教育・研究資源を社会に還元し、地域社会の活性化の一助となれば幸いである。皆さまのご参画を心からお待ちしている。

（文責 河野一典）

3 こどもの未来支援室

「純心こども講座」は、例年どおり「リズムあそび」と「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」の2講座を企画・実施した。講座は土曜日の午前中（10時～11時）に開講される。（表2）

春季講座として5月・6月に各1回、秋季講座として10月・12月に各1回、計4回の実施を計画し、予定どおり全日程開催できた。前年度は、

新型コロナウイルス感染症予防の観点から実施を見送った講座があったため、計画どおりの実施は実に4年ぶりとなった。

また、5月に実施した講座は、近隣の保育施設にお声かけし、園児を招待しての実施とした。これは前年度に引き続き試みで、子どもと触れ合う講座の企画が初めてで不慣れな学生たちにとって、団体での招待園児の参加は、幾分円滑な運営が見込めることが確認できたからである。

表2 令和5年度「純心こども講座」実施状況

講座名	担当講師	定員	受講者数	会場
リズムあそび ①6/17 ②10/14 ③12/9(土) 10時00分～11時00分(全3回)	萩原 香織	各回40組 (全3回)	① 8組 (19名) ② 12組 (27名) ③ 13組 (30名)	本学 体育館
いろとあそぼう・かたちとあそぼう ①6/17 ②10/14 ③12/9(土) 10時00分～11時00分(全3回)	榎本 容好	各回20組 (全3回)	① 13組 (33名) ② 12組 (30名) ③ 16組 (39名)	本学 プレイ ルーム



リズムあそび



いろとあそぼう・かたちとあそぼう

今年度の「リズムあそび」も、講座のプログラムの前半にコーナー遊びを取り入れ、後半に全体でのリズム体操を行う方法で実施した。親子共に参加しやすい講座運営を目指し、プログラムの前半にコーナー遊びの時間としているが、子どもにとっては体育館や学生スタッフに慣れる時間として、保護者にとっては開始時刻に間に合わなくても、気兼ねなく参加できるプログラムとして機能している。

「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」では、親子の関わりのきっかけとなる講座づくりに努めた。この講座は、造形活動という講座の性質上、子どもと学生スタッフを中心に活動が展開される。製作したものを着てファッションショーをしたり、保護者をお客さまに見立てて、パフェ（製作物）を提供したりすることで、保護者を巻き込んだ講座とな

るよう工夫している。

また、前年度に引き続き今年度も、12月の講座を「リズムあそび」「いとあそぼう・かたちとあそぼう」の合同開催とした。講座を前半と後半に分け、クリスマスのオーナメント作りとリズムダンスの両方の内容が経験できるプログラムとなった。前年度は作品作りの場面で、参加者が1つの場所に集まってしまうことがあった。今年度はその反省を踏まえ、会場を広く使う工夫として、参加者を4つのグループに分けて活動を展開した。具体的には、会場となった体育館内の4箇所にクリスマスツリーを設置し、その周りで活動を行うこととした。リズムダンスの場面で、やや会場の前方に人が多くなった場面はあったものの、会場全体を利用した講座とすることができた。



クリスマス会の様子

今年度久しぶりに、当初の計画どおり「純心こども講座」を全て実施できたことは喜ばしい。年に4回という小さな取組ではあるが、毎年同じことの繰り返しではなく、次年度もさらに参加者が楽しめる講座を企画していきたい。

課題としては、参加者数と参加率が上げられる。5月の講座を招待枠のみとしたこと、参加者の参加しやすさの観点から、参加費の徴収方法を1回ごとに徴収する方法にしたところ、申し込みはいただくものの、欠席されるケースも増えた。これは、過去に同様の方法をとったときと同じであるが、対象者が就学前の子どもとその親であるため、急な体調不良などによるキャンセルは仕方がない側面がある。定員を超えた時は、早めに申し込みを締め切るなどしているの、キャンセル待ちの枠を作るなどの対応を検討したい。

想林第15号

最後に、「純心こども講座」は本学こども学専攻の学生にとって、教育課程と連動した貴重な実習の場でもある。保育を学ぶ学生の成長のために、入学したての1年生〔指導補助員〕を温かく見守ってくださる地域の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げたい。

（文責 森木朋佳）